

## 第 12 回鈴鹿病態薬学研究会



開催日：平成 30 年 1 月 11 日（木）

会 場：鈴鹿医療科学大学（白子キャンパス）6号館 6103室

演 題：「血管を標的とした免疫療法 ～がん、関節リウマチ、肥満～」

講 師：宇都口 直樹先生（昭和薬科大学 薬剤学研究室）

免疫および免疫療法に関する研究を長年続けておられる宇都口先生は、本講演で、がんにおける血管新生の制御による免疫療法を中心にご自身の研究成果を含めてご紹介されました。がん組織における血管新生は、がん細胞の増殖に必要な酸素や栄養分の供給路を確保するために生じるもので、その分子機構は創傷治癒の際に生じる血管新生とは異なっている。今回、宇都口先生がご紹介した免疫療法は、がん組織に特異的な血管新生を標的としたものであり、腫瘍内血管の内皮細胞を抗原提示細胞である樹状細胞に取り込ませ、この樹状細胞を生体内に戻すことにより、腫瘍血管に対する細胞傷害性 T 細胞を活性化させるもので、担がんマウスを用いた実験でがん細胞の増殖が特異的に抑制されることをご紹介されました。また、血管新生が病態の増悪化に繋がる疾患として、関節リウマチ、肥満などがありますが、関節リウマチにおいては関節滑膜の血管新生を、肥満においては脂肪組織の血管新生の抑制を期待する免疫療法の開発についても同様な手法も用いて可能であることを研究成果に基づいてご紹介くださいました。

今回の研究会には、本学の教員や学生を含む35名を超える参加者があり、免疫療法に関する質問だけでなく、血管新生の機構やその解析に用いる実験手法に関する質問などもあり、幅広い内容について議論が交わされ、大変充実した研究会となりました。

講演会場の風景（6103号室）

